

・雨でも休まず、250回、251回・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動：12月7日（第一日曜日）：小原本陣の森・・・、弁当持参
*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
- ・定例活動：12月21日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
*一般むき、参加費400円、主食・自分の食器持、飲料水。
.....
- *注意事項1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
・服装：汚れても良い服装、着替え・滑らない足元
・持参：飲料水、成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、
- *注意事項2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

環境問題；若者の反応

通信教育制度の東海大付属 / 望星高校の講座で「世界・日本の森林状況」という講座を引き受けたことがある。

そこで、国連食糧農業機構（FAO）では、地球の森林総面積は約40億haであり、2007年度の地球の森林減少は年間1400万haだと発表している。だとすれば、計算上あと230年間で空気や水が確保できなくなるという事になる。別に、植林が年間500から600万haされているという推計統計があるが、これを差し引いても、約445年で地球から森林がなくなると言うことだ・・・と話した。そうすると、生徒から続々と問い合わせのメールが届き続けている、いくつかの例を以下に述べる。曰く・・・、

- 1 解決の方法は何でしょうか？
- 2 森が崩れるだけということでしょうか？
- 3 身近なところでは、どのような現象が起こっているのでしょうか？
- 4 日本では自然の回復を進めていると聞かすが、本当に結果が出せるのでしょうか？
- 5 私は、何をすれば良いのでしょうか？
- 6 空気や水を与えてくれる森林が無くなれば、人類はどう、生き伸びれば良いのでしょうか？

解決の途があると、その具体策を述べて回答したが、数年前、講演会の会場で環境省（局長）出身でNPOを主宰する講師の発言に強く抗議した覚えがある。彼、曰く・・・、

「私は69歳になります。私は、あと10～20年の生命でしょう。ですから、この問題は私には関係ありません。皆さんで解決してください」といった。石村として、怒り心頭に発したので強く抗議した。

「ここに学生の出席者が多数参加している。貴方は、彼らに責任を擦り付けるのですか。そんな時代にしたのは、貴方自身ではないのですか」。環境省局長出身者は、立ち往生していた。

当会には、「学生連合 Forest Nova」という森林の保全・再生に取り組む大学生団体も参加している。彼らも日夜、どう森に向かうかと研鑽に励んでいる。現状の最大の問題点は大人側の墮落にある。

参加者 12 名、毎回参加者の増える傾向にある。今回もうす曇りの爽やかな天気恵まれました。

前回、約束した通り、高来神社から高麗山に登り、作業場の浅間山を目指すコースを歩きました。JFIK (日本森林インストラクター会・神奈川会) の内野さんがミニ観察会と言っていいような樹木・草花・キノコの説明をしてくれて、これまで判然としなかった事柄が一挙に判明し、一同、大満足。



いつもの浅間山頂上直下北斜面の下草刈り作業にかかったのは 11 : 15 ころ。今回も笹竹と蔓植物が絡み合ったジャングルのような密生部に挑戦、ついにジャングルの突破に成功しました、でも、まだまだ、残る荒廃した林床、われらの労働は、続きそうです。

-
- 1 湘南平を拠点に福祉法人進和学園や在宅就業支援 (株) 研進を営んでいる出縄貴史さんから電話があって「緑のダム湘南の森」と交流したいという話があった。平塚市には出縄 (いでなわ) 言う地名があって代代、この地の名士と思われるが、お会いしてみると随分と腰の低い人で、進和学園や研進の施設も存分に使って欲しいとの申し出である。いろいろなことに積極的、前向きのお人柄で、きっと、良い関係になると思う。
 - 2 11月7日、当会活動に熱心に支援して下さっていた、平塚市役所の元公園課長 (現・土木部長) の府川さんを、佐藤さん、岩澤さん、出縄さん (地元の実業家)、石村の 4 人連れ立って、今後の活動の進め方の相談と現・公園課長への紹介をお願いに訪問した。府川さんは以前同様、親身に相談に乗って下さって、現・公園課長に話を通して下さると言うことになった。
 - 3 11月11日、代表を引き受けてくれた佐藤さん、(協同代表・岩澤由美子さん) から、今後、どのように進めるかの詳しい意見メールが届いた。内容は、イ これまでの経過 ロ 当面の問題 ハ 作業効率 ニ 資金の問題 ホ 目標設定・明文化 ヘ 来年の展望 ト その他 実にいき届いた内容であった。そして最後に “ 全ては豊かな森のために !! ” と結んであった。
 - 4 岩澤由美子さんからの電話 : 「 19日、平塚市の公園課長に会ってきました。力を合わせましょうという返事でした 」 と言うことであった。
- * 湘南の森は、平塚市・大磯町にまたがって、南から湘南平 ~ 浅間山 ~ 八俣山 ~ 高麗山と標高 160 から 180 m の連山で、最寄りの大磯駅から 30 分足らずで湘南平に出る絶好の地の利にある。“ 緑のダム湘南の森 ” は、数年を経ずして “ 緑のダム北相模 ” を凌駕する活動になるだろう (石村記)

先月に活動の時より大分寒くなり、日も短くなってきました。
木の葉はまだ緑でしたが下草は所々枯れ始めていて、冬の訪れを感じました。

午前、永井さんの家の中を見せてもらい、お話を聞きました。
一番印象に残っているのは昔の人は自分の山から取れた木だけで自分の家を建てていたと言う事です。

また、機織木など昔の貴重な道具も見せてもらいました。

午後は、2年後には小原の森をハイキングコースとして一般の方に公開しようという計画があるということで、今回はそのコースを決定するために実際に森の中を歩きました。

石村さんも一度しか入ったことがない場所ということと石村さんの持ってきた地図が間違っていたということもあり道に迷ってしまいました。しかし、コースを決定がすることが出来ました。



他のメンバーは学園祭ということで学生の参加は自分ひとりでしたが、今までにはないたくさんの貴重な体験のできた1日でした。

.....

不正確な地図は、本当に怖いです。ちょっと尾根筋を右に行くか左に行くかで、とんでもない場所に出てしまいます。気づくのが早かったので、どうってことにはなりませんでしたが反省しています。齋藤学生とはいろんなことを話しました、率直・明朗な学生で将来が楽しみな青年です。
(石村記)

小雨の秋の森、濡れた黄葉に静かな森に大勢の学生が参加。桜井先生率いる日大造林実習 51 名、学生連合 10 名、早大教育学部 10 名、望星高校 15 名、一般 21 名、計 107 名。”雨でも休まず”。何、これしきの雨は、雨とは言わないだけで。

早稲田の教育学部は、教師志望のメンバーで佐々木ファールと森林体験。午前は栗林の中に設置した”カブトムシ牧場”の腐葉土から甲虫の幼虫を掴みながら、虫の嘘、ホントなど興味深いお話。「甲虫が蛹から成虫に成る時は、体温が 100 度まであがる！」に仰天！「蒸発沸騰・昇天しないの！？」。また、昆虫をペットボトルなどで飼育する時のポイントは乾かさないうこと。引率の金山先生の機智に富んだ合いの手も入って一層、教師と学生のコミュニケーションが盛り上がる、サスガ！

望星高校は、望星の森の植林した杉幼木の周りを整備、今回は先生が 4 人も参加、生徒たちと自然のなか中に溶け合って作業する姿は美しく楽しい。

先月に続いて大所帯の日大グループは班に分かれて先生や先輩の指導で、森の中で活発に毎木調査(胸高直径や森林密度の調査)日大に指定・黄色のユニフォームが見え隠れし、さながら動く黄葉。途中、マッシュルーム玉子に出会う。手に取って黄色の茸をトントンと叩くと茶色のホコリが出る。これは「孢子」で茸を割ると茶色のホコリがギッシリ詰まっていた。これは桜井先生から聞いていた「狐の茶袋」とかで、日大森林資源学科の玉虫真琴君のグループでした。今回は、学生たちと先生たちの自然に中の授業・実習の素晴らしさを特に感じた森の風景でした。



お久しぶり参加の東急コミュニティグループは、広葉樹のボサ刈りに果敢に挑戦。「久々に森に来て森もスッキリ、動物たちも多いね」との事。

お昼は、具タップリのトン汁と白菜サラダ。そんな昼食・お昼休みた「清家みえこさんの森のコンサート」ギター片手に澄んだ歌声が森に流れた。今回も素敵な森林活動でした。

(追加報告) 定例活動、嵐山にブヨが現れる。

今月の定例活動で、ブヨに刺されてしまう参加者がいました。ブヨはハエより若干小さく、体長 3 ~ 5 mm 程度の吸血性の虫です。綺麗な水辺を好むため、蚊と違って都会では見かけません。

刺されると猛烈に痒いだけでなく、人によっては激しい痛みを生じたりいつまでも腫れが残ったりします。この件に関してメーリングリスト上で様々な意見が出ましたので、ここでご紹介します。「ブト(ブヨ・ブユ)は綺麗な水を好みます。ブトがいるということは自然がそれなりに保たれているということでしょう。益虫害虫は人間が決めたこと、地球が決めたわけではありません。賢く上手に共生していきませんか。」(斎藤会員)「自分たちにとって都合の悪い状況も、我慢する、耐える、対策を講じる、相手の立場/対策を取った場合の影響も考える、というふうに話が進んでいるようで、頼もしい限りです。「悪い相手」は撲滅/駆除しなければならないのか、それでも共存を考えるのか・・・、生き方に大きな違いがあるでしょう」(日大・桜井先生)

定例活動時の対応としては、ブヨに刺された場所の共有、ポイズンリムーバーの携行、ステロイド系虫刺されクリームの購入を考えています。

ウォークモリー活動報告：10月25日(第四 土曜日)

報告：Forest Nova 所属2年 宮脇 尊

Forest Nova は10月25日(土)に嵐山にてウォークモリーというイベントを開催いたしました。外部からの参加者は6名で、スタッフは11名、緑のダム北相模から佐々木様、斎藤様、伊藤様の3名の方からサポートしていただきました。

伊藤様からの紹介でゆうじさん(ミュージシャン)の方がわざわざ駆けつけてきてくださり、お昼にはみんなで歌をうたいました。

今回のウォークモリーはネイチャーゲーム、嵐山散策、間伐体験、木を使った工作、ナイトハイクの多くの企画があり朝から夜遅くまでかかり参加者はへ口へ口になりながらも最後まで一緒に活動してくれました。

特に間伐体験の時にはチェーンソーやノコギリなどを使い、どこに倒せばかかり木が防げるのかなんのために間伐をするのかを説明してから皆で一丸となり木を切りました。参加者からは「初めての自分の手で木を切った。」などのお声を頂きとても楽しそうでした。今後もこのような活動をしていきたいと思えます。



物品や場所などの提供をしてくださった緑のダム北相模の皆様そしてサポートをしてくださいました、佐々木様、斎藤様、伊藤様。ウォークモリーが無事に終わることができたのは皆様の御協力のおかげです。本当にありがとうございました。またこのような機会のときはどうかよろしく願いいたします。

相模原市主催の「森のワークショップ；副題：探そう！相模原の森の未来」と名付けて10月26日、午前中は、「若柳嵐山の森」を説明しながら、ぐるりと一回りして午後は、相模湖交流センターでシンポジウムを開催した。

内 容

講師1：青根小、津山校長、

演題：木があって森がある

講師2：農工大、佐藤准教授

演題：森林保全と産業林業の両立

講師3：緑のダム、石村事務局長

演題：NPOが取り組む森林の保全・再生

事例1：串川財産区・区長

演題：市民に開かれた森をつくる山主たち

自由討議；4班に分かれての「如何に森林の活性化を形にするか」・・・夫々、活発な提案が飛び出した。結論は、「明確な方針と参加しやすい仕組みづくり」となった。この結論をどう、形にするかがこのワークショップの今後の課題となる。



進行司会は、この夏に多野東部森林組合の「林地団地化・集約施業見学会」に飛び入り参加した角田ナオ子さん。当初は随分、変わり者の印象を受けたが、やることなすこと理にかなっている面白い人物、たつての協力を要請されたのだが後日、相模原・加山市長から礼状を受け取った。

かながわボランタリー基金21：プレゼン：5カ年契約の最終年：

平成17年度から始まった、同基金との最終の審査会プレゼンテーションに臨んだ。今回プレゼンの特徴は、県の支援金終了後の活動をどうするかだが、一番の問題は、総活動費約1000万円の内、毎年500万円を支援して頂いていたのだが22年度から、一挙にそれが消えて無くなるということだ。これまで県の支援金で活動していた団体で、支援が切れたことで活動も消えた団体もある。支援を受けた5年の間中、そのことを念頭に商品開発や支援金情報の蓄積、請負森林整備の可能性を試みて来たから、対策は万全を期している。



● 一方、この5年で県から随分と沢山の経営ノウハウを学ばせてもらった。この支援がなかったら、せいぜい「若柳嵐山の森」活動で終わっていたかも知れない。県の支援には心から感謝している。これまで得たノウハウを今後十全に生かして真のNPO活動に励みたい。プレゼン後の松岡座長の講評は心温まる、勇気を与えられるものであった。

地域との交流

1 本陣祭り：11月3日：文化の日

毎年、快晴と決まっているこの日は例外、熱くもなく寒くもなく、うす曇りの好天気。小原町主催だが、よくも12年間続けてきたものと敬服する祭り。主賓の加山相模原市長を大名に仮装させて甲州古道を練り歩いてもらう、小原町内会の意気や良し。昨年は「何でこんな道化姿をしなければならないの？」佛頂面での仮装行列参加だが今年は、ニコニコ顔の余裕の参加。市長が、ニコニコ顔なら町民もニコニコ顔。当会は、川崎の「NPO法人さいわい町づくり研究会」の参加の協力を得て、小原町：本陣祭りを大いに盛り上げた。森林地域と都市部の交流なしでは、森林地域の活性化は不可能だと思うのだ。



2 若柳嵐山の森：自然体験感想

投稿 桂北小学校4年生・児童

僕は、素手でカブトムシの幼虫やさなぎを触ってはいけないと思っていました。でも「きずをつけないければ触ってもいいんだ。」と教えてもらって、触ってみたらつつるつるしていて、予想とはちがいました。くさった葉っぱなどを食べることや、ふんが分解されてつちになることも分かりました。土の中を調べたら、カナブンの幼虫やミミズも出てきました。深く深くほったらミミズが出てきたので「こんなににもミミズがいるんだな」と思いました。

森の中では、様々な虫や動物や植物などが生きていることが分かって、これからも、もっといろいろ調べてみたいと思いました。
これからもお世話になると思うので、よろしくお願いします。



小学生に指導する佐々木会員

神奈川県の森林再生を広報するために、横浜市都築区の巨大ショッピングモール「ら・らポート」で、森林循環フェアが盛大に開催された。当会からは「緑のダム積木」を3000個持ち込んだのだが、出せるスペースに制限があり、余りに盛況で足の踏み場もないほど。1000個減らして2000個で臨んだ。会期中、松沢県知事も立ち寄り「森のことは、キッとお願いします」と激励をうけた。



それにしても子供たちばかりでなく、大人もどうしてこんなに積み木に夢中になるのだろう。平素、ゲームで満足している満たされない架空世界と、自分で創造する現実世界の豊かさを感じているのだろうか。

かながわコミュニティカレッジ：11月18日

“かながわ市民力”を生かせと積極的な展開を図っている「県民部NPO共同推進課」の要請を受けて、「自然と緑の保護・育成活動；森林ボランティア活動」と銘うって、約30人のボランティア希望者に当会活動を紹介した。」

.....

活動のモットー： 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

- 名 称： NPO 法人緑のダム北相模
- 事務局： 154 - 0023 東京都世田谷区若林3 - 35 - 9
- 発行人： 石村 黄仁 T&F 03 - 3411 - 1636
- H P： <http://midorinodam.jp> E-mail： info@midorinodam.jp
- 協働団体： 神奈川県（企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター） セブンイレブンみどりの基金
- ご支援の団体： WWF・JAPAN, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティJFEメカニカル、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京